

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市男女共同参画センター	評価対象年度	平成29年度
事業者名	すくらむ21運営共同事業体 ・代表者 株式会社キャリアライズ 代表取締役社長 喜入深至 東京都中央区八重洲1丁目3番22号 ・構成員 東電タウンプランニング株式会社 代表取締役社長 市田 雅之 東京都目黒区目黒2丁目10-11	評価者	市民文化局人権・男女共同参画室長
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日	所管課	市民文化局人権・男女共同参画室

2. 事業実績

利用実績

1 施設利用状況

平成29年度	提案目標値(%)	実績値(%) 29年度	実績値(%) 28年度	○:提案以上 △:提案未満
ホール	79.0	84.9	90.3	○
第1楽屋	55.9	57.6	56.6	○
第2楽屋	34.8	35.8	37.4	○
会議室	43.0	43.2	37.7	○
第1研修室	57.0	55.7	58.1	△
第2研修室	55.5	50.5	53.2	△
第3研修室	43.5	37.1	40.1	△
第4研修室	63.2	58.9	63.0	△
多目的室	50.6	48.4	45.8	△
平均	53.6	52.5	53.6	△

2 講座参加者数

年度	講座数(回)	開催回数(回)	参加延人数(人)	うち男性(人)	保育利用 延人数(人)
平成26年度	135	257	2,252	480(21%)	160
平成27年度	117	159	1,477	267(18%)	130
平成28年度	120	164	2,819	255(17%)	90
平成29年度	104	175	1,615	335(21%)	62

※男性の参加延人数・比率に、男女別カウントをしていないホールでのイベント、映画上映会の参加者数は含まれない。
 ※平成28年度に実施した講座のうち、親子向けコンサート及び上映会で1,178名計上しているが、平成29年度にはいずれも実施していないため、差異が大きく出ている。

3 相談件数

◆女性のための総合相談

年度	電話(件)	法律(件)	面接(件)
平成26年度	3,016	59	53
平成27年度	4,057	69	57
平成28年度	4,333	70	59
平成29年度	4,731	63	48

◆男性のための電話相談(平成28年4月より実施)
 平成29年度:103件 [H28:104件]

◆就職希望者のための個別キャリア相談

年度	実施回数(回)	申込み(人)	相談件数(件)	保育(人)
平成26年度	168	211	127	23
平成27年度	160	183	97	11
平成28年度	136	113	67	7
平成29年度	123	104	72	3

4 ホームページアクセス数

年度	アクセス数	前年度対比(%)
平成26年度	115,297	118.2%
平成27年度	114,488	99.3%
平成28年度	96,890	84.6%
平成29年度	85,977	88.7%

5 すくらむ21まつり来場者数

年度	来場者数(人)	参加団体(団体)
平成26年度	4,007	50
平成27年度	3,483	47
平成28年度	2,567	42
平成29年度	3,527	41

収支実績	1 収入 128,099,118円 [H28:128,650,421円] 内訳： 指定管理料 112,500,000円 [H28:112,500,000円] 施設利用料金収入 14,549,818円 [H28:15,028,821円] その他収入 1,050,300円 [H28:1,121,600円] 2 支出 125,492,099円 [H28:128,444,453円] 内訳： 人件費 41,116,267円 [H28:43,894,678円] 事業費 17,939,947円 [H28:18,055,285円] 施設維持管理費 55,535,060円 [H28:55,057,311円] 事務経費 10,900,825円 [H28:11,437,179円] 3 収支差額 2,607,025円 [H28:205,958円]
サービス向上の取組	●施設利用促進の取組 第3研修室のPCをWi-Fi対応のものに更新し、LANケーブルを撤去した。 AEDの使用方法、非常時対応のマニュアルを掲出した。 ●施設予約に関する取組 民間のWEB広告媒体を活用し、駐車場がある貸会議室としての検索性向上を図った。結果として会議室及び多目的室の稼働率の向上につながり、施設全体の稼働率は1.7%増、利用者は3334名増を達成した。 ●情報提供の充実 ホームページの全面リニューアルを平成29年10月に実施し、複数の閲覧手段への対応を進めた。特にスマートフォンの普及が進んでいることに鑑み、スマートフォンで閲覧しやすい、多様なアクセス手段への配慮をしている。

3. 評価

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画

利用計画</

サービス向上及び業務改善	適切な事業の実施 (調査研究・啓発事業)	提供すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	7	3	4.2
		実施事業の利用促進への具体的な取組がなされているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (相談事業)	提供すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	7	4	5.6
		実施事業の利用促進への具体的な取組がなされているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (情報提供事業)	提供すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	7	3	4.2
		実施事業の利用促進への具体的な取組がなされているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (学習・研修事業)	提供すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	7	4	5.6
		実施事業の利用促進への具体的な取組がなされているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (交流・ネットワーク事業)	提供すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	7	3	4.2
		実施事業の利用促進への具体的な取組がなされているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (自主事業、その他事業)	提供すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	3	3	1.8
		実施事業の利用促進への具体的な取組がなされているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	業務改善による サービス向上	実施計画と実際の事業実施内容に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	4	3	2.4
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組がなされているか	4	4	3.2
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			

サービス向上及び業務改善	(評価の理由) 【調査研究・啓発事業】 ●新規事業として、既存事業の実施状況、課題調査をし、対象を定めて状況把握と課題整理を行った。 ●平成28年4月に常設化した「男性の電話相談」事業の安定的な運営に向けて、男性相談相談員の養成に係る仕組みを検討する委員会を平成29年度も開催した。また、男性相談員にも研修を行い、必要な知識・スキルの形成に努め、更に育成研修を通じて新たな男性相談員が誕生した。男性対象の相談事業を実施している他自治体の実施状況を調査し、各種課題の整理と今後の方向性の検討を行った。 ●市や各区・地域で行われる防災訓練や各種出前講座の依頼が17件と大幅に増加し、男女共同参画の視点からの地域の減災・防災力を高めていくためのアプローチとして貢献した。 【相談事業】 ●主軸である「ハロー・ウィメンズ110番」は、運営体制が安定してきたこと、相談カード・チラシを継続して作製・配布し、広報活動を行ったことから、大幅に増加した平成28年度の相談件数を上回り、4,842件となった。[H28:4,333件] ●平成28年4月より「男性のための電話相談」を常設化し、安定的な運営に向け、男性相談周知のためチラシやカードを関係施設等に配布するなど、積極的な広報活動を展開していたが、29年度は更に配布先を新規開拓した。また、相談マネージャー企画によるカンファレンスを強化(12回開催)し、課題抽出・相談員のスキル向上につなげるとともに、新たな相談員を育成した。相談件数のうち、無言電話及び電話機不調による通話不能をその他と分類しているが、その他の件数は平成28年度の38件から平成29年度は28件に減少し、無言電話は35件から22件に減少した。電話の総数は平成28年度の104件から平成29年度は103件とほぼ横ばいであるが、実質的な相談に至った件数は増加している。 ●DV被害者支援事業として、11月の「女性に対する暴力をなくす運動」にあわせて自立支援のための物資募集を行い、前年度を大幅に上回る2,952点(H28:2,254点)の支援物資の寄付を受け、緊急避難施設を通じてDV被害者に提供した。 【情報提供事業】 ●ホームページ、フェイスブック、メールマガジンを引き続き活用し、情報発信の手段の多様化を図っている。 ●メディア・プレス等の掲載実績は、年度事業計画で設定した目標値60件を下回り、51件であった。 ●シングルファーザー向けリーフレット「みんなどうしてる? 川崎市に暮らすひとり親男性に聞きました」を発行及び年度内に増刷し、市役所・保育園・NPO法人等の協力を得て広く配布した。 - また、平成29年度NPO法人全国女性会館協議会が主催する事業企画大賞における奨励賞を受賞した。 ●前年度に作成し、大きな反響を巻き起こした父子手帳「ちちるるべ」を市内各地の両親学級、関係機関、個人を中心に年度内に約4,000部を配布し、男性の子育て参画について広く啓発した。 【学習・研修事業】 ●講座受講者数は延べ参加者数が1,615人であるが[H28:2,819人]、近隣区に限らず市内全域に出向き、多様な地域の担い手と連携・協働するため積極的に男女平等推進学習や防災分野の出前講座にも参加し、事業全体の受講者数は2,922名であった。 ●平成29年度中に開催したセンター主催の女性起業家支援事業の3つの講座修了者に後日追跡調査を行い、その結果受講者延べ23名中創業者数は6名(26.1%)であった。[H28:20名中1名]また「再就職・転職・就労継続のための個別キャリア相談」受講者にも追跡調査を行い、相談時点での就職・転職希望者45名中就職者は13名(28.8%)であった。前年度から講座の受講規模、受講者自身の起業などの成果とも伸びており、女性の起業・再就職等にかかる講座は十分な成果をあげている。 ●指定管理業務仕様書には学習・研修事業の例としてドメスティック・バイオレンスに関する講座等及びセクシュアルハラスメント等のハラスメントに関する講座等が挙げられているが、相談事業にて実施している。 【交流・ネットワーク事業】 ●男女平等推進週間(6月23日～29日)に合わせて「すくらむ21まつり」を開催し、雨のち曇りという天気ではあったが、昨年度より1,000人近く多い3,527名の参加があった。[H28:2,567人] ●市内工業団体女性活躍推進事務局長会議の構成団体の協力を得て、中小企業等事業所に勤務する女性が、業務時間に研修を受けられるようにした。神奈川労働センターとの協働や異業種情報交換の場を設けるなど、関係各団体のネットワーク構築に貢献した。 ●市の運営委員会廃止に伴い平成28年度中から新たに設置した「センター運営推進委員会」を適切に運用し、センターの事業や施設の利用促進等について協議・意見交換を行った。 【自主事業、その他事業】 ●開催ニーズの高い市民向けの有料講座の開催を、29年度は女性の就業支援の一環として、市民活動団体の協力を得て実施した ●乳幼児とその保護者を対象とした参加型イベント「はっと・はっと・ミュージカル」を開催した。「おと絵がたり(オリジナルの絵と音楽と語り)川崎にちなんだ昔話)」の上演、アウェアネスリボンの色に込められた意味を紹介する展示の実施により、センターの認知度拡大につなげた。 【利用者の意見・要望への対応】 ●第3研修室・情報提供室の貸出用PCをWi-Fiに対応しているものに更新し、LANケーブルを撤去することでパソコンの利用環境を改善した。 ●貸出用の茶器を各階給湯室設置から事務室で管理、その都度洗浄するよう変更した。 ●ホールホワイエのトイレを洋式化するとともに、個室の扉を外開き式に統一した。 ●楽屋の備品として新たに譜面台を設置した。				
	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	4	3	2.4
組織管理体制	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認がなされているか	3	3	1.8
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか			
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	4	3	2.4
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用がなされているか	3	3	1.8
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	3	3	1.8

組織管理体制

(評価の理由)

【適正な人員配置】
●職員の退職があった際に業務配分の見直しや本社と兼務の職員をすくむ専業にしたほか、非常勤職員を雇用するなど、業務に支障が出ないように迅速かつ適正な人員配置がなされた。

【連絡・連携体制】
●所管部署との連絡調整会議を毎月開催し、事業実施結果や当月事業予定、相談・確認事項、施設管理運営状況についての報告、各種事業の進捗状況や課題等の確認等を行っている。毎月の事業報告書の様式を改め、企画段階から事業完遂までを見通して事業の進捗を確認し、課題の把握や進捗管理が的確に行えるようにした。本社社員も同会議に出席し、情報共有を確実に行うとともに、現場、本社、所管課との連携ができる体制を構築した。また実施事業や施設の管理や運営での相談・確認事項がある場合は打合せを随時行っており、業務改善に向けた協議を進めている。

【担当者のスキルアップ】
●職員全員を対象としたスキルアップのための勉強会や、社会情勢等を考慮した個人情報保護研修、コンプライアンス研修などを実施しており、業務に必要な知識の習得、再確認を行っている。

適正な業務実施

施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか	5	3	3
外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			

(評価の理由)

【施設・設備の保守管理】
●仕様書に基づき、法令点検及び定期点検を確実に実施している。また指定管理者独自の取組として、独自様式の管理チェックシートを活用した不具合・危険箇所の確認、自主点検による安全確認を実施しており、警備員の巡回と併せて不具合を見落とさない体制を整備している。

【清掃・警備・外構・植栽管理・備品管理】
●外観・内観ともに美観が保たれている。日常清掃では、清掃員に「日常清掃実施報告書」の作成を義務付け、施設管理運営責任者が内容を確認している。警備員は時間毎の定期巡回を実施し、設備等に破損等がないか確認を行っている。巡回時間以外は施設入口付近での警備を行っている。

4. 総合評価

評価点合計	64.8	評価ランク	C
-------	------	-------	---

配点合計	100
------	-----

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

講座・研修・イベントの実施をはじめ、男女共同参画の視点をもった防災への取組や事業者・市民団体・NPO・地域経済団体等との連携を積極的に行い、本市における男女共同参画社会の形成に寄与している。 施設稼働率は目標値より下回ったが、施設利用料金収入は目標値を達成できた。 講座の受講者については男性参加者の割合が20%を超え、男性の子育て参画推進などの取組が着実に結実している。また、女性向け起業・再就職関連の講座受講者が実際に起業し、また転職・再就職した件数・割合とも増加しており、継続事業の成果が目立った。 一方、利用料金収入は過去最高益を上げた前年度より減少しており、施設の稼働及び収入の安定化が引き続きの課題である。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

●講座を充実させ、より効率的かつ効果的な広報を通して、講座受講者等の増加を図ること。 ●常設化した「男性のための電話相談」を、相談員の確保を適切に行う等により確実に遂行し、男性にとつての相談体制を安定したものとする。 ●積極的に施設の利用促進を図り、提案書に掲げている施設稼働率、施設利用料金収入の目標値を達成すること。 ●利用者の意見・要望を事業や施設管理運営に反映するために創意・工夫をし、サービス向上につなげる。 ●引き続き広報活動の強化や情報発信の見直しを継続し、市民の需要の発掘やニーズに応える運営を続けること。 ●平成28年度から設置したセンター運営推進委員会と協議・意見交換を密にし、施設運営に活かすこと。 ●社会問題に即した講座や男女共同参画に資する講座等を、迅速かつ柔軟に企画・実施し、課題の解決に資すること。 ●改修したHPを有効に活用して、アクセス数の向上を図ること。
